

応募方法

1人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内（未発表のものに限る）。はがきに作品・住所・氏名・応募する壇名をはっきり書き、〒989-0292 白石市大手町1-1 白石市総務課へ。はがき一枚に短歌、俳句、川柳の併記は不可。
毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。（☎koho@city.shiroishi.miyagi.jp）

市民文芸

歌壇 岩崎 聰之介 選

老い我の日課の散歩土歩き 風がふわらら伴
すると言う 我妻 孝則
やと晴れ仏に一礼家を出てほまら 畑に大根を
蒔く 菊地せつ子
青空に黒雲絨毯ひき延びてかなたや既にどしや
降りならん 木村 芳香
一寸したミスと好プレーがきつかけで競った野
球試合大差でおわる 齋藤 巖
亡き夫の好みたる花白百合の絵ハガキうれしや
孫より届く 佐藤喜恵子
あれこれと助けて下さるお隣りさん此度は夫の
緊急入院 末吉アツ子
水害も無きに安堵し菜園を潤しゆく雨を見て
いる 佐藤ひろ子
どんよりと雲覆い居てこの夏も終りか稲田にト
ンボ飛び交う 村上八重子
コンバインの音ひびかせて豊作と稲刈る農夫え
がおに話す 星 明
遷りゆく村の風景歌にして名もなき人の息吹を
継がむ 鈴木 雅

詠一首目、ふわらはユニークなオノマトペ。柔らかな風と連れ立ってゆく、楽しそう。
二首目、実直な一日の始まりと労働。ほまら畑は昔亡夫から貰った小さな畑、喜びを収穫するのだ。
三首目、第二句に四文字の造語。そして複合動詞とつづけ、うまく結句へと繋げている。

俳壇 山家 弘子 選

走馬灯亡夫と少しの一夜酒 菊地せつ子
喜寿なれど新規購入稲刈機 平間 幸恵
頭たれ刈り取り間近稲穂波 末吉アツ子
亡き夫と散歩せし道彼岸花 山田 もも
豊漁と天守の空の鰯雲 星 明

柳壇 四竈 英夫 選

赤とんぼ染って里へ帰りけり 村上八重子
弱そうで雨にも負けぬ秋桜 菊川いつ子
暑くてもひんやり涼し風の吹く 木村 芳香
揚花火おばこの頬や桃色に 我妻 孝則
雨止みて瞳に広がる秋うらら 鈴木ゆかり
詠一句目、二度と生きて帰って来ることのない夫。諸行無常が身にしみる。仏壇の前で夫と酒を呑み交わす。二人で晩酌を楽しんだことが走馬灯のように思い出される。
二句目、七十七歳ともなれば足腰が弱くなる。稲刈り機がこわれたのを機に米作りは辞めようと思っただが購入。十年は頑張らねば。
三句目、手塩にかけて育てた稲が重そうに垂れて今年も豊作が期待できそう。

御意見番あつぱれ喝と天国へ 星 明
検診で身長計ればまたつまり 志村かつい
ご時世か永代供養の名前増え 佐藤 啓子
忘るるを愛し友とし生きてゆく 菊地せつ子
降水帯あつと言うまのレベル五に 遠藤 松雄
想定を越える被災地地震豪雨 末吉アツ子
雷鳴にひざに駆け込む愛犬よ 村上八重子
老人の水飲み忘る読書かな 大庭美智子
別れ際互い又ねがこの先も 菊川いつ子
猿遊ぶ川原子線の家路かな 木村 芳香

詠一句目、プロ野球解説者の張本勲氏が旅立った。現役3,085本最多安打の金足塔。スポーツ番組での「あっぱれ、喝」と囃に衣を着せぬ解説が心に残る。合掌。
二句目、検診のたびに身長が低くなる。自然の理には逆えず、心細い思いが…。「無理は止しましょ体に悪い」
三句目、終活、墓じまいなどの言葉が聞かれる昨今。お墓を守って行くことがいずれ出来なくなることへの心配。さもありなん。

Shiroishi Market

フレッシュマーケット

～地元農産物の魅力を発信～

地元の農産物や直売所などの魅力をお届けします。
～白石市農産物直売所連絡協議会は、地産地消を推進！～

市内の農産物
直売所情報▶



「里芋」に栄養と歴史あり！

縄文時代に伝わったとされる里芋は、日本ではお米より先に主食とされていた歴史ある野菜で、白石市内でも昔から作られています。「白石三白野菜」のひとつである里芋の品種「土垂芋」は、粘り気とほくほくとした食感を楽しむことができ、煮崩れしにくいので汁物や煮っ転がしに最適です。

また、里芋は高血圧やむくみ予防、胃の粘膜保護などに役立つと言われ、食物繊維も豊富なため、健康上の効果が期待できます。栄養満点の里芋料理で温まりながら、寒い季節を乗り切りましょう！

☎農林課 ☎22-1253



▲「土垂芋」は、コロシとした膨らみのある楕円形が特徴です

皆さんからのすてきな情報を待っています！／

まちかどズームイン



▲風車の大きさを肌で感じる児童たち

風の力で未来を動かす
白石越河風力発電所 現地見学会

9月15日、福岡小学校と深谷小学校の児童が白石越河風力発電所を見学しました。この取り組みは、県条例に基づく地元小学校への環境教育支援の一環として実施。参加した児童は「風車が想像していたよりも大きくて驚いた。白石市全体に電気を届けられるくらい発電してほしい」と期待を寄せていました。



▲新米のササニシキを味わって食べる参加者

炊きたての新米ササニシキ
宮城白石産ササニシキ新米試食会

10月1日、みのりキッチンで宮城白石産ササニシキの試食会を開催しました。過去に食味日本一を獲得した「白石産ササニシキ」の復活を目指してプロジェクトが立ち上げられ、現在は8人が栽培に取り組んでいます。今年で10年目を迎え、参加者は「他の米とは風味が違っておいしい」と話していました。



▲駅周辺の飲食店で交通安全を呼び掛ける東北ずん子さん

交通事故防止で無事故の秋に
秋の交通安全県民総ぐるみ運動出動式

9月18日、9月21日から30日にかけて行われる「秋の交通安全県民総ぐるみ運動」を前に、白石駅前に出動式が実施されました。この日は東北ずん子さんが一日警察署長を務め、出動式終了後には、白石駅の利用者や周辺の飲食店に交通安全を呼び掛ける街頭活動を行い、交通事故防止の機運を高めました。



▲ごみがないか隅々まで目を凝らす児童たち

きれいなまちづくりを目指して
城下町クリーンアップ作戦

9月29日、白石第二小学校児童による清掃活動が行われました。この取り組みは、白石市民としてきれいなまちづくりに貢献するために、令和3年度から実施。1・2年生は学校敷地内、3・4年生は学校周りの公園、5年生は白石城と益岡公園の周辺、6年生は白石城から第二小学校までの歩道とエリア分けし、清掃活動に励みしました。